

富士香菜子*、○酒井哲也*、酒井豊子** (*共立女大 **放送大)

筆者らは、前報において、アパレルファッションの新旧度の判定能力を10代後半から60代までの各年齢層の女性について検討し、判定に用いる基準像の精度は判定者のファッションに対する興味とあるファッションに接触する年齢によって定まり、したがって判定者の成長過程が強く関係し、高年齢層になるほど曖昧になる、などの結果を報告した。この調査では、ほぼ1970年代のアパレルファッションに属するモードグラフを対象とし、判定にあたったいづれのパネルにおいても多かれ少かれ体験し得た時期のものを選んだ。

今回の調査では、判定する女性にとって直接に経験しえない時代のアパレルファッションを用い、その新旧度判定能力を計測し、前回の調査結果と比較・検討することを試みた。

フランスの代表的服飾モード雑誌 Vogueの1951年7月・10月号および1958年9月・10月号からおおむね非作為に抜粋した11点のモードグラフ（前者から5点、後者から6点）をランダムに配置し、提示用図面を作成した。各アパレルの新旧度の判定者として、前回の調査で最も正確な判定能力を示しうることが分かった20才前後の女性層を想定し、適宜選んだ72名に判定を依頼した。

調査結果の分析から次のような推論が得られた。すなわち、判定の正解率をランダムな判定と比較すると、判定者は明かに有意な判断を行っている。しかし、新旧の判断については逆になっていて、1951年製デザインを新しく、1958年製のデザインを古いと判定させるような基準を持っている。しかしそのような基準は、結局、判定者が成長過程での経験を通じて培ったファッション観に基づいているように思われる。